

第二十七回帝國議會
衆議院

軍人恩給法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第四回

會議

明治四十四年三月十四日午後一時二十五分開議

出席委員左ノ如シ

伊藤 大八君	石橋 爲之助君	荒川 五郎君
根岸 峯太郎君	吉植 庄一郎君	中村 啓次郎君
武藤 金吉君	米田 穰君	小久保 喜七君
鹿島 秀賢君	紫垣 一雄君	丸山 孝一郎君
井上 角五郎君	武滿 義雄君	秋岡 義一君
佐野 春五君	藏原 惟郭君	關 和知君

出席政府委員左ノ如シ
陸軍次官 男爵石本 新六君
海軍次官 財部 彪君
陸軍省參事官 吉村八十三君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

軍人恩給法中改正法律案

明治三十三年法律第七十六號中改正法律案

明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案

委員

○委員長(伊藤大八君) 是ヨリ開會致シマス

○佐野春五君 此軍人恩給法ヲ通覽致シマスルト、普通刑法、陸軍刑法、海軍刑法等ニ關係シテ居リマス箇條ガ、二十四條、二十五條、二十九條、三十條ニ互ッテゴザイマス、是ハ早晚普通刑法、陸軍刑法、海軍刑法ト相對シテ、關係ノ明白ナルヤウニ改正ヲシナケレバナラヌモノト思ヒマスガ、政府ハ此際之ヲ調和スルヤウニ御改正ニナル思召ハアリマスノデスカ

○政府委員(吉村八十三君) 御答致シマス、軍人恩給法中ニ刑法ニ關係ノ條項ガアリマスガ、是ハ刑法ノ改正當時ニ於キマシテ、施行法ニ於テツレノ各法律ニ於ケル關係ノ規定ヲ設ケテアリマス、今日實行上カラ申シマスルト、寧ロ改正シタト同ジコトニナッテ居リマス、唯此條項ガ文字ガ變ッテ居ラス、今度改正ノ刑法ニドツ云フ風ニ當ルカ、ツレノ施行法ニ細カイ規定ガアリマスカラ、實行上差支アリマセヌガ、此度ハ此恩給法ニ限ッテ特ニ改正ヲスルト云フコトハ致シマセヌデスカ、若シ恩給法ヲ全部改正致シマストキハ固ヨリ唯今仰セニナッタヤウナ主意ニ依テ、刑法關係ノ文字ヲ全部改正スルコト、思ヒマス

○佐野春五君 第二十四條ノ六項ヲ改正ニナリマス趣意ハ、海軍ノ方ニ此條項ノ適用ガナイカラ改正サレト云フ御説明ガアツタ思ヒマスガ、ヤハリ其趣意ハ普通刑法ナリ、陸軍刑法、海軍刑法ニ適用セラレテ、同時ニ御改正ニナル方ガ法律ヲ見ル者ヲシテ能ク理解セシメテ、改正ノ目的ヲ達スル上ニ能ク適フダラウト思ヒマス

第五類第三十七號 軍人恩給法中改正法律案外二件委員會會議錄 第四回

○政府委員(吉村八十三君) 御答致シマス、二十四條ノ六項ヲ改正致シマシタノハ、斯ウ云フ次第デス、唯今御尋ノ通り海軍ノコトニ關係アツタニ違ヒアリマセヌ、海軍デドウ云フコロカラ起ツタコト云フト、服役ノ關係カラシテ現行ノ規定ノ通りニ致シテ置キマスルト、或場合ニ一ニ二ノ場合ニ禁錮ニ處セラレ、官職ヲ失フト云フ規定ニナッテ居リマスルガタメニ、此適用ヲ受ケナイ場合ガ生ジマス、從テ輕微ナ禁錮ニ處セラレテ居ッテモヤハリ官職ヲ失ハナイテ持ッテ居ルト云フコトガ一ニ起リマシテ、甚ダ從來トモ不權衡アルト云フノデ、改正ヲ待ッテ居ッタ際、此度此改正ガアツタ際ニ其點ヲ直シマシタ、陸軍關係ニハ憲兵條例第三十五條ノ規定ハ既ニ今日條項ガ變ッテ居リマスカラ、其序ヲ以テ此六項ヲ變ヘマシタ、實際現行通りニ致シマスト恩給ノ上ニ不都合ヲ感シマスカラ改正ヲ致シマシタ

○佐野春五君 恩給法ノ二十五條ニハ恩給ノ權利停止ノ事項ガ規定サレテアリマス、之ニ依リマス公權ヲ停止セラレタ場合ノ外、軍人ガ現役ニ就ク、若クハ文官判任以上ニ任セラレテ政府ヨリ恩給ヲ受クルト云フ場合ニ限ラレテ居ルヤウデアリマスガ、政府ハ此停止事項ヲ今少シ擴張セラレマシテ、或ハ公吏トナッテ俸給ヲ受クルモノ、又財產ガ豐カデアッテ生計ノ困難モナク、其位置信用ヲ保ツコトノ出來ルト云フ人ニハ、或ハ恩給ヲ停止スルト云フ考ハナイノデアリマスガ、承ハル所ニ依レバ獨逸ナドデハ恩給額ヨリ以上ノ收入ノアル人ニハ、恩給ヲ其收入ノ續ク間停止スルト云フ規定ガアル、此點ニ付テ何カ御考ハアリマセヌカ

○政府委員(吉村八十三君) 御答致シマス、此二十五條ノ停止ノ規定ハ是ハ官吏恩給法モ同ジ規定デアリマスガ、其趣意ハ政府カラ恩給ヲ受クルツレ故ニ政府以外ノ俸給ハ附イテ居リマセヌ、從來ノ考ニ依リマス、政府カラ支給スル以外ノ俸給ヲ斟酌スルト云フコトハ甚ダ困難デアリマス、恩給ノ趣意カラ云ッテモドウカト思ヒマス

○佐野春五君 恩給ヲ國家ガ與ヘマス趣意ハ、單ニ恩給ヲ受クルモノ、養老的ノ趣意ニ限ラレズシテ、其人ノ生計ノ困難ナキヤウニ維持セシムルト云フ目的ノ下ニ給與セシムルモノトスレバ、或ハ華族ノ如キ、其他富豪ノ如キ、政府カラ受クル所ノ恩給ハ何等ノ算盤ノ上ニ載セテ居ラナイ人ニ向ッテハ、支給スル必要ガナイヤウニ考ヘラレル、サウ云フ人ニ向ッテ、サウ云フ收入ノ續ク間停止スル法ヲ設クルノモ、恩給ヲ與フル目的ニ背カナイ、却ツテ適當ノ處置アルト思ヒマス、現ニ外國ニモ其例ガアル、其點ニ付テ調査ガアリマスガ

○政府委員(男爵石本新六君) 外國デハ主トシテ親族的ノ家族、即チ子供ガ多イトカ少ナイトカ云フ關係ガ、恩給ノ多少ニ依リテ區別ヲ付ケラウト思ヒマス、露西亞ノ如キハサウアル、其他ノ國ニ於テハ家族ノ多少若クハ當人ノ貧富ニ應ジテ恩給額ニ差ヲ付ケ、或ハ全ク恩給ヲ一時停止スルト云フコトノ類例ハゴザイマセヌ、我國デハ總テ恩給ナルモノハ在官年限ノ如何ニ依テ多寡ハゴザイマスケレドモ、家族ノ多少若クハ一個人ノ貧富如何ニ依テ、區別ヲ立テルト云フ制度ニナッテ居リマセヌ、全體一樣ノ制度

明治四十四年三月十四日

ニナッテ居リマス、恩給法ヲ御通覽下サイマス分リマスガ、我國ノ恩給法ハ他國ト違ッテ尊親屬ニ及フ制度アリマス、是等ハ趣ヲ異ニシテ居ル制度デゴザイマス、併セテ申上ゲテ置キマス

○委員長(伊藤大八君) 最早御質問ハ盡キタト思ヒマスカラ、是ヨリ討議ニ移リタイト思ヒマス、御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○委員長(伊藤大八君) 御異議ガナケレバ三案アリマスルガ、先以テ恩給法律案中改正法律案、之ヲ議題ニ供シマス

○關和知君 本員ハ大體ニ於テ、此恩給法中改正法律案ニハ反對ヲ表スル者デゴザイマス、其理由ト致シマシテハ本案ニ對シテ當事者ノ説明ニ依ルト、第一ニ是ハ昨年度ニ於テ一般ノ文官ニ向ッテ増俸ヲシタ、同シク國家ノ公務ニ從事スル者デ、而モ生命ヲ賭シテ國家ニ盡シテ居ル者アルカラ、文官ヲ優待シタト同シ意味ニ於テ軍人ニ向ッテモ此恩給ノ改正ヲ必要トスルト云フノガ根本ノ唯一ノ理由ノヤウニ思ヒマス、サウシテ第二ノ寧ろ是ハ附帶ノ理由トモ見ルベキモノトシテハ、武人トシテノ品位ヲ保チ、或ハ物價騰貴ノ際從來ノ待遇デハ頗ル不權衡アル、斯ウ云フヤウナ意味合ニ聽キマシタガ、此第二ノ理由ト云フモノハ當委員會ニ於テ寧ろ議員ニ依テ要求セラレ、御答ニナッタヤウナ風デアッテ、生活上ニ必要アルト云フタメノ理由トシテハ薄弱ニ存ジマス、元來文官ト武人トニ對スル國家ノ待遇ト致シマシテハ、根本ニ於テ性質ヲ異ニシテ居ルデアリマス、而モ又今日ノ武人ニ對スル待遇ガ果シテ文官ノ待遇ヨリモ權衡ヲ得テ居ラヌカト云ヒマス、實際ニ於テサウデアナイト云フコトハ政府委員ノ説明ニ於テモ明カアル、先日ドナカノ質問ニ對シテ陸軍次官ノ御答ニ依リマス、今日ノ恩給ヲ得テ居ルトコロノ軍人ノ生活狀態ハ、其大部分ニ於テ決シテ困難アル、悲境ニ居ルト云フヤウナコトハ認ムルコトガ出來ズシテ、如何ニモ感心ニツレノ生計ヲ立テ、居ル、其子弟ハ中等ノ教育ヲ授ケ、或ハ進シテ高等ノ學校ニモ入レテ居ルト云フヤウナ有様デ、唯ニ其中ノ一部分少數ノ者ガ言フニ忍ビザル狀態ニアル、中ニハ破廉耻罪ヲ犯スト云フヤウナ者モ出テ來ルト云フコトデアリマシテ、詰リ今日ノ恩給ヲ受ケテ居ルトコロノ軍人社會一般、概シテ決シテ生活ニ困難ヲ覺エテ居ルト云フデモナク、又軍人トシテノ品位ヲ保ツニ於テ不足アルト云フコトモ覺エナイノデアル、シテ見マスルト云フト詰リ第一ノ理由タル文官ニ増俸ヲシタカラ、武官ニモ増俸ヲスルト云フヤウナ極單純ナル理由アル、若モ此理由ガ國家ノ財政上ニ於テ十分ニ餘裕ガアッテ、而シテ尙厚キガ上ニモ厚クシテ軍人ヲ犒フト云フヤウナ場合デアラナラバ、此理由モ或ハ開クベシデアルケレドモ、御承知ノ今日ノ狀態ニ在ルノデ、強イテ軍人ガ生活ニモ困難ヲ覺エルト云フデモナク、品位ヲ保ツニ於テ缺クル所ナキ以上ハ、先以テ是ハ暫ク現狀ヲ維持シテ、單ニ文官ニ増俸シタガ故ニ武人モ亦金ヲ貰ハネバナラヌト云フコトハ、蓋シ帝國軍人ノ本意デハナカラウト思フノデ、昔ハ文臣錢ヲ愛シ、武臣命ヲ惜ムト云ヤウナ言葉モ聞イテ居リマスルガ、今日ノ帝國軍人ガ命ヲ惜ムノミナラズ、更ニ此錢ヲ愛スルト云フガ如キ狀態ニ在ルトハ私モ信ジマセヌ、又此ノ如キ傾向ニ導クト云フコトハ、國家ノ政治ノ大分カラ言ヒマシテモ甚ダ忍ビザルコトデ、此點ニ於テ大體本案ニ反對ヲ表スル者デアリマス、尙附ケテ言ヒマスレバ一體此

在郷軍人ナドノ中ニ於テ、實際ノ狀態ヲ見マスルト、恩給ヲ受ケテ居ル位ノ人ニハツレノ勳章、年金等ノ方法モ備ッテ、彼等ノ生活ト云フモノハ比較的安樂アル、却ッテ恩給ヲ受ケザルトコロノ多數ノ軍人ガ、實際憫ムベキ狀態ニ居ルデアリマス、サウシテ國家ハ如何ニ是等ノ恩給ヲ受ケザル多數ノ軍人ヲ見テ居ルカト云フト、頗ル此冷酷ト云フテハ或ハ激ニ失スルカモ知レマセヌガ、稍ノ冷酷ノヤウニ聞イテ居リマス、例ヘバ在郷軍人ナドノ會ガアリマスル、或ハ此天長節ナドノ祝節ガアリマシテ、軍人社會共ニ皇恩ノ大ナルヲ感謝シテ、武人共ニ樂ムト云フサウ云フ場合ニ於テモ、上級ノ恩給ヲ得テ居ルトコロノ軍人ハ、其場合ニ喜ンデ出席スルコトモ出來ヌ、出席スルコトニ於テ毫モ差支ハナイガ、ツレ以下ノ多數ノ軍人ニナリマスルト、態々暇ヲ使ヒ、サウシテ會費ヲ取ラレ、而モ其會費ノ如キハ開クトコロニ依ルトスル祝節ナド軍人ノ集ル場合ニ、強イテ是等カラ幾箇月カノ積リ積ツタ會費ヲ徴收スル、或ハ又是等ニ向ッテ寄附金ヲ強制的ニサセルト云フヤウナ有様デアルト云フノデ、今日實際ノ狀態カラ言ヒマシテハ、此案ノ必要ヲ認ムルトコロノ軍人ニ向ッテハ待遇ヲ厚クスルノ必要ナク、更ニ當局トシテハ多數ノ恩給ヲ受ケザルトコロノ、憫ムベキ全國ノ軍人ニ向ッテ、相當ナル方法ヲ講ズルコトガ寧ろ必要デアラウト思フノデアリマス、又遡ッテ此恩給法ノ特典ヲ四十三年度、丁度文官ニ増俸シタト同シ割合合同同期限カラシテ是ニ給シヤウト云フヤウナコトハ、又頗ル體ヲ得ザルノ甚シキモノデアッテ、同シク遡ルナラバツレ以前ニ遡ッテ平等ニ待遇スルコトガ當然デアルト思フノデアリマス、若シツレガ財政上或ハ許サヌト云フノデアラナラバ、今ノ場合ニ此ノ如キ改正ヲシテ、サウシテ一部ノ軍人ニ特ニ厚クシテ、是ニ漏レタルコロノ他ノ多數ノ軍人ヲ棄テ、顧ミザルト云フヤウナ事柄ハ國家トシテ頗ル不公平ト信ジマス、以上述べタル理由ニ依リマシテ本案ノ大體ニ於テ反對ヲ表シマス

○秋岡義一君 私ハ此政府案ニ對シテ二三修正ヲ加ヘマシテ、之ニ贊成シヤウト思ヒマス、修正ヲ加ヘマスル要點ハドウデアルカト云ヘバ、退職恩給ナリ免除恩給ニ於テハ政府案ニ依ルト上ニ厚クシテ下ニ薄イ嫌ガアリマスカラ、即チ將校ハ二割五分、下士ハ二割、卒ハ一割五分ト云フヤウナコトニナッテ居ルノデ、之ヲ總テ二割宛現行法ヨリ増加スル、斯ウ云フコトニシタイト思フノガ第一デアリマス、ソレカラ第二ニハ、此給助金ハ服役年數ニ應ジテ等差ヲ附ケルト云フコトニ政府案ガナッテ居リマスガ、是ハヤハリ現行法ノ如ク服役年數ニ應ジテ等差ヲ附ケル必要ガナイト思フノガ一ノ箇條デアリマス、ツレカラモウ一ツニハ、此法律ハ四十三年度ノ四月一日以後ノ者ニ之ヲ當嵌メルコトニナッテ居リマスルガ、今ノ關君カラモ御述ニナツタ如ク、若シ之ヲ遡テヤルト云フコトニスルナラバ、或ハ其以前ニモ遡ッテ之ヲ給スルコトニシナケレバ不公平デアル、故ニ前ニマデ遡ルコトガ非常ニ多額ヲ要スルト云フコトニナリマスガタメニ、吾々ハ遡ルト云フコトヲ全體ニ止メテシマッテ、此法律公布ノ日ヨリ以後ノ者ニ之ヲ適用スルコトニシタイト云フノガ一ツデアリマス、モウ一ツハ、日露戰役以後ノ廢兵ニ對シテハ相當ナ恩給ヲ與ヘラレテ居ル、然ルニ其以前ノ廢兵ニ對シテハ日露戰役以後ノ者ト餘程恩給額ニ於テ違ヒガル、之ヲ稍ノ權衡ヲ得ルノ程度マデ日露戰役以前ノ者ヲ引直シタイ、斯ウ云フノガ一ツデアリマス、以上ノヤウナ理由ヲ以テ之ヲ修正シタイ、即チ是ヨリ其箇條ニ付テ私ノ修正説ヲ述ベヤウト思ヒマス、此第十六條中「其額ハ第四號表ニ依ル」ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ「トシテ

ゴザイマス、此中以下給助金ハ云々ト云フ所カラ、第四號表ニ依リ之ヲ給スト云フマデヲ削リマシテ、其十六條ニ左ノ但書ヲ加フ、此但書ヲ存シテ置キタイ、是ハドウ云フ理由カト云ヘバ、前ニモ申シタル如ク既ニ退職恩給ナリ免除恩給ヲ二割ノ割合ヲ以テ増加スルト云フコトニナッタデアリマスカラ、此救助金モヤハリ二割ノ割合ヲ以テ増加スルト云フコトニ致シテ、服役年數ニ應ジテ等差ヲ附ケルト云フデケノ規定ヲ削リガタメニ、此ノ如ク修正ヲ致スデアリマス、ソレカラ二頁ノ十行目ニ第一號表第二號表及第四號表ヲ附表ノ如ク改ムデアリマス、此表ニ付テハ總テ現行法ノ二割増ト云フコトニ金額ヲ改メタイと思フ、テ幸ニ私ノ修正説ガ成立チマシタラバ、ソレ等ノ數字ノ修正ハドウカ委員長ニ於テ整理サレルヤウニ願ヒタイと思フ、其次ニハ附則デアリマス、附則ノ第一項「本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス」、其下ニ但シ云々デアリマスガ、但シ以下ヲ削リテシマヒタイ、ソレハ前ニモ申シタル如ク溯テ此恩給ノ増加ヲ適用シナイ、斯ウ云フデアリマスカラ、溯テ給與スルト云フデケノ規定ヲ削リノデアリマス、第二項「前項但書ノ場合ヲ除ク外」ト云フ文字ヲ削リタイ、是ハ既ニ第一項ニ對シテ溯テ支給シナイト云フコトニナリマシタガタメニ、此項但書云々ト云フ文字ヲ削リ方ガ相當ニナッタ譯デゴザイマス、ソレカラ其次ニ附則ノ三項「從前ノ規定ニ依リ退職恩給又ハ免除恩給ヲ受ケ死亡シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料及其ノ」ト云フ退職恩給カラ「其ノ」ト云フマデノ文字ヲ削リマシテ、ソレニ代ヘマスルニハ「扶助料ヲ受ケル者其權利消滅シタルカタメ」斯ウ云フ文字ヲ加ヘタイデアリマス、ソレカラ此理由ハ次ノ一所ニ述ベヤウト思フ、其次ニ斯ウ云フ一項ヲ加ヘタイ「本法施行ノ際現ニ退職恩給又ハ免除恩給ヲ受ケ、又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ハ本法ノ規定ニ依ル」、斯ウ云フ一項ヲ加ヘタイ、此項ニ述ベマシタ二項ナリ四項ニ付テ斯ウ云フ改正ヲ行ヒマスノハ、此改正施行前ニ現役ヲ離レタルモノ、遺族ニシテ其者ニ扶助料ノ恩惠ヲ與ヘタイ、即チ政府案ノ如クデゴザイマスレバ、此改正案ヲ施行サレタ以後恩給ヲ受ケタ者ノ遺族デケヨリ此扶助料ノ恩惠ハ受ケラレナイ、其前ニ恩給ヲ受ケタモノ、遺族ハ、ヤハリ舊法ニ依テヤラナイト扶助料ヲ受ケラレナガ、同改正法ガ施行サレタ以後ニ於テ、甲ノ者ハ舊法ノ扶助ヲ受ケ、乙ノ者ハ新法ノ扶助ヲ受ケルト云フコトハ、甚ダ權衡ヲ得マセト思ヒマスノデ、總テ改正ガ施行サレタ以後ニ於テ、扶助料ヲ受ケルモノハ總テ此新法ニ依テ給與スルコトニ致シタイ、斯ウ云フマデデゴザイマス、ソレカラ其次ニモウ一項加ヘタイ、是ハ明治三十七年二月六日以前現役ヲ離レ增加恩給ヲ受ケルモノニ對シテハ、本法施行ノ日ヨリ第十條第一項ニ準シ第三號表ノ金額十分ノ八ニ相當スル増加恩給ヲ給ス、但シ圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム、是ハ前ニモ述ベタ如ク二十九年ノ法律第二十號ニ依テ、日露戰役以後ノ廢兵ニ對シテハ増加恩給ヲ非常ニ増加サレテ居ル、故ニ其以前日清戰役ノ北清事變等ノ場合ノ廢兵トハ餘程權衡ガ取レヌコトニナッテ居リマスカラ、日清戰役ナリ北清事變等ノ廢兵ニモ、日露戰役以後ノ分ト同様ナ恩典ヲ與ヘタイ、斯ウ云フデアリマス、併シ之ヲ唯十分ノ八ト致シマシタノハ、日清戰役ナリ北清事變ノ時ノ廢兵ニハ一時賜金ヲ多額ニ給サレテ居ル、故ニ現行法ノ増加恩給ヲ其儘渡シテハ却テ其前ノモノ、方ガ非常ニ多額ノ恩惠ヲ受ケルヤウニナリマスカラ、ソレト權衡ヲ取ルタメニ十分ノ八ニ止メタ譯デゴザイマス、其次ニモウ一項ヲ設ケタイデアリマス

〔贊成〕ト呼ブ者アリ

○荒川五郎君 此軍人恩給法ノ改正増額ハ大體ニ於テ吾々モ贊成デアリマス、然ルニ多少不公平モアリ、殊ニ日露以前ノ廢兵ナドニハ其改正前ノ恩給法モ及バナイノデアル、非常ニ同情スベキ地位ニアリ、議會ノ問題ニ既ニナッテ居タデアリマスガ、唯今秋岡君ノ修正説ハソレ等モ皆權衡宜シキヲ得テ、一視同仁的一般ニ其恩典モ均霑スルヤウニナッテ居リマスノデ、吾々モ全部其趣意ヲ贊成シマスカラ、速ニ其修正説ノ通り可決アラント望ミマス

○武藤金吉君 直チニ決定セラレンコトヲ望ミマス

○佐野春五君 私人恩給法ノ說ニ贊成致シマス、モウ多ク辯ヲ費シマセヌガ、本員ノ考ヘルトコロニ依ルト、軍人恩給法ノ第二十五條ノ第二項ノ第一號ニ當ル恩給ヲ受ケル權利ノ停止事項、是ハモウ少シ擴張スルノ必要ガアラウト思フ、其必要ハ國家ノ經濟狀態ニ於テ然リト考ヘル、尙此擴張スルトスレバ、是ト均衡ヲ保ツタメニ官吏恩給法ノ第十三條デアカカ是ト同規定ガアリマス、ソレモ同時ニ訂正スル必要ガアラウト思フ、併シ此本會期ニ於テ之ヲ決定スルコトガ出來ヌトスレバ、他ノ官吏恩給法ノ均衡ヲ保ツコトガ出來ナイト云フ不公平ガ生ジマス、ソレデ軍人ノ恩給ヲ増加スルト云フコトノ反對ハ、或ハ此ニアリマセウト思ヒマス、私ハ尙篤ト根本的ニ改正スルト云フ事柄ニ付テ、深く審査ヲ要スルト云フ趣意ノ下ニ、即チ延期ノ趣意ノ下ニ於テ廢案說ヲ贊成致シマス

○委員長(伊藤大八君) 是ヨリ採決致シマス、反對ノ方カラ決ヲ採リマス、反對ノ諸君ノ御起立ヲ願ヒマス

起立者 少數

○委員長(伊藤大八君) 少數デアリマス、次ニ秋岡君ノ修正意見ニ付テ採決致シマス、秋岡君ノ修正ニ御同意ノ方ノ御起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○委員長(伊藤大八君) 多數ニ依テ秋岡君ノ修正意見ニ決定致シマス、是デ此

軍人恩給法中改正法律案ハ決定致シマシタ、次ニ明治三十三年法律第七十五號同三十五年法律第二十九號準用ニ關スル法律案、ソレト明治三十三年法律第七十六號中改正法律案、此二案ヲ一括シテ議題ニ供シマス

○秋岡義一君 私ハ此明治三十三年法律第七十六號中改正法律案ノ附則ノ第三項デアリマスガ、即チ恩給法ニ於テモ前ニ溯ラヌト云フコトノ修正ガ成立ツタノデアリマスカラ、此三項ハ削除スルコトニ致シタイト思ヒマス、即チ「明治四十三年四月一日以後施行ノ日迄ニ於テ死去シタル者ノ遺族ニ給スヘキ扶助料ノ金額ハ本法ノ規定ニ依ル」ト云フ箇條、之ヲ削除スルト云フ意見デアリマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○委員長(伊藤大八君) 秋岡君ノ唯今ノ修正意見ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伊藤大八君) 然レバ滿場一致ヲ以テ秋岡君ノ修正通り可決致シマス、二案其他ニハ別段修正意見ガゴザイマセヌカラ、此案ハ總テ可決致シタモノト致シマス、是ニテ閉會致シマス

午後二時四分散會